

2018 年 1 月 23 日の草津白根山噴出物構成粒子の特徴

2018 年 1 月 23 日の草津白根山（本白根山）噴出物の変質粒子が約 8 割を占める。既存の山体の構成粒子が噴出したと考えられるため、今回の噴火は水蒸気噴火である可能性が高い。

草津白根山（本白根山）1 月 23 日噴火の噴出物を観察した。噴火は 9 時 59 分頃に本白根山の鏡池北火砕丘付近から発生した。試料は 10 時頃に本白根山・鏡池北火砕丘の北東約 500m 地点のゴンドラ座席に堆積したもので、13 時 07 分に気象庁により採取された。観察には水洗・篩い分けした 125～250 μm 、および 250～500 μm の粒子を用いた。水洗時には細粒な黄鉄鉱（py）粒子が浮遊した。

1 月 23 日噴火の噴出物（図 1）の構成粒子は、全体の約 8 割が白色粒子（H）と様々な程度に変質した岩片（L）からなり、H 粒子には黄鉄鉱の付着がしばしば見られる（図 2）。全体の約 1 割はガラス光沢を呈する緻密～発泡した粒子（G）（図 3）、残りの約 1 割は結晶片からなる。

今回の草津白根山（本白根山）噴出物には、既存の山体の構成物だと考えられる変質粒子が約 8 割（H, L）含まれる。G 粒子と L 粒子は変質程度が漸移するため、G 粒子も山体の構成粒子の可能性もある。従って、今回の噴火は水蒸気噴火である可能性が高い。G 粒子の成因については今後の検討を要する。

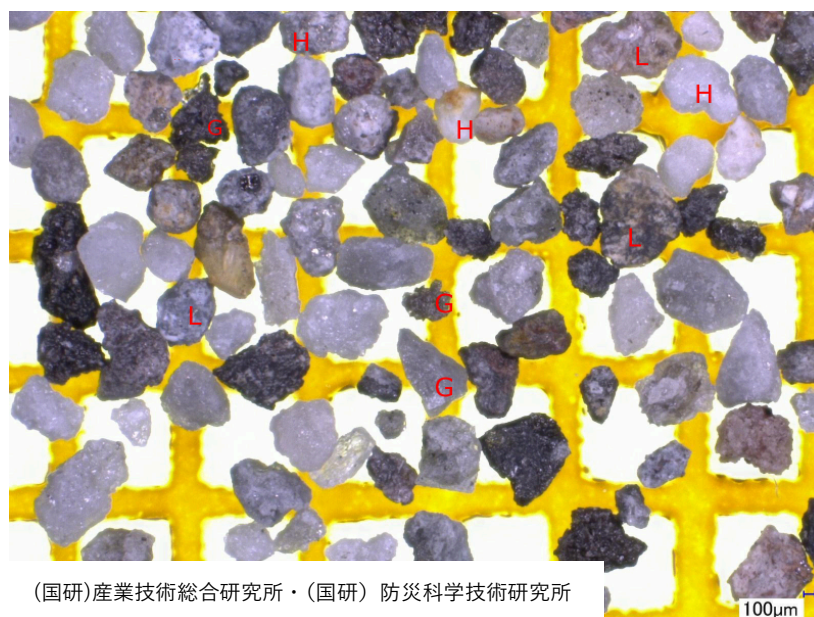


図 1. 2018 年 1 月 23 日の草津白根山（本白根山）噴出物の構成粒子（250-500 μm ）。H: 白色粒子。L: 変質した岩片。G: ガラス光沢を呈し緻密～発泡した粒子。

草津白根山
（本白根）

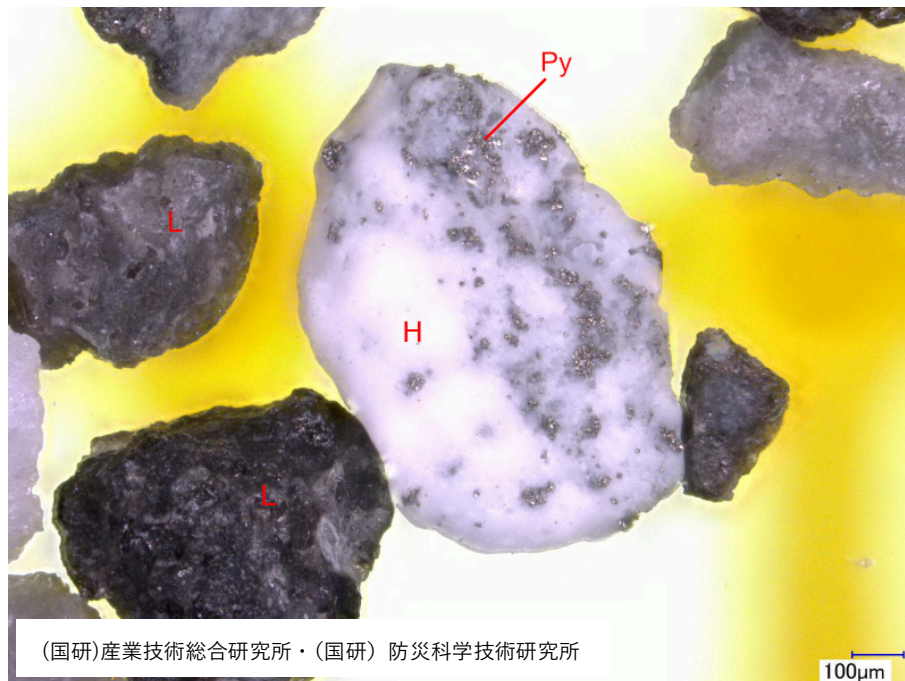


図 2. 2018 年 1 月 23 日の草津白根山（本白根山）噴出物の構成粒子（250-500 μm ）. H: 白色粒子. L: 変質した岩片. H 粒子には黄鉄鉱（py）の付着が見られる.

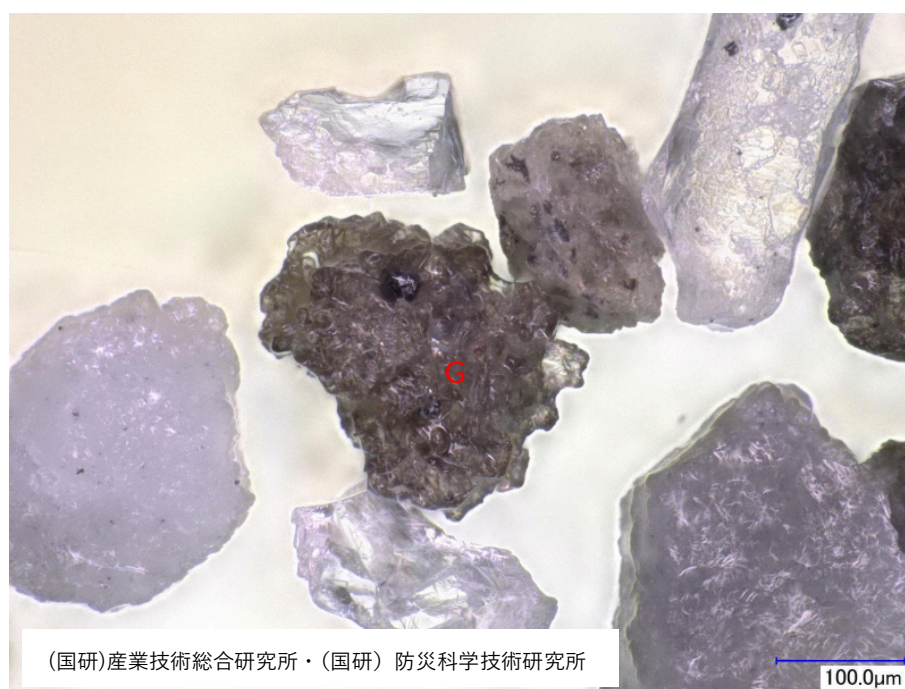


図 3. 2018 年 1 月 23 日の草津白根山（本白根山）噴出物の構成粒子（125-250 μm ）. G: ガラス光沢を呈する緻密～発泡した粒子.

草津白根山
（本白根）